

果樹

果樹

作物	農薬名(成分含量)	特性	対象雑草名	処理法	使用上の注意事項
果樹類 (かんきつを除く)	ブリグロックスL ジクワット 7.0% バラコート 5.0%	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。殺草には光が必要である。毒物であるため取扱には特に注意する。	一年生雑草	雑草茎葉散布	1. 薬液が作物に直接かかると激しい薬害を生ずる。 2. 散布ムラになると効果が劣るのでいねいに散布する。 3. 晴天乾燥時の日中はむしろ効果が低下するので夕方または曇天に散布する。 4. 危害防止のため、起泡剤サンフォメートを添加し、フォームスプレーノズルで散布する。 5. 宿根草は地上部を枯死させるが再生が早い。 6. 展着剤(非イオン系)を加用する。
			多年生雑草		
			スギナ		
果樹類	レグロックス ジクワット 31.8%	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。殺草には光が必要である。劇物であるため取扱には特に注意する。	果樹園下草一年生雑草	雑草茎葉散布	1. 雑草のみに散布し、薬液が果樹、桑などの作物や周辺の有用食物にかからないよう注意する。 2. 広葉雑草に効果が高い。 3. 展着剤(非イオン系)を加用すると効果が高くなる。 4. 広葉雑草に比べて大きくなったイネ科雑草に対してはやや効果が劣るので、所定の薬量の範囲内で多めに散布する。
果樹類 (かんきつ、パイナップルを除く)	カルナクス草枯らしMIC グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%	同上	一年生雑草	雑草茎葉散布	1. 作物の茎葉に薬液が飛散すると薬害を生ずる。 2. 処理後6時間以内に降雨が予想される場合は使用しない。 3. 展着剤の加用は必要ない。 4. 接触移行型であるため、土壌処理効果がないので、雑草に均一に散布する。 5. 殺草効果は散布水量より散布濃度に影響されるので草種別使用薬量を守る。 6. 殺草効果は雑草の生育最盛期ほど高くなる。 7. 効果の完成がやや遅いので、散布後7~10日間は刈取り耕起は行わない。 8. 宿根草にも殺草効果が高いので、法面等での使用は土壌流亡に注意する。 9. 薬液調製には濁水等を使用しない。 10. 少量散布には、専用ノズル(ラウンドノズル25等)を使用する。 11. 移行性が強いことから、薬液が台木、根等から発生するヒコバエに付着すると樹勢低下や果実生産への悪影響が懸念される。薬液がヒコバエにかからないよう注意するとともに、必要に応じて散布前にヒコバエの除去を行う。
			多年生雑草		
果樹類 (かんきつ、キウイフルーツ、パイナップルを除く)	サンダーボルト007 グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルフェンエチル 0.16%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主としてタンパク質の生合成を阻害し殺草する。	一年生及び多年生雑草	雑草茎葉散布	1. 付近の農作物、樹木の茎葉に薬液が飛散すると薬害を生ずる。 2. 散布後6時間以内に降雨があると、効果が低下するので気象条件に留意する。 3. 接触型で土壌処理効果はないので、雑草に均一に散布する。 4. 冬場は効果の発現が遅れることがある。
うめ あんず くり ブルーベリー	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	一年生雑草	雑草茎葉散布	1. 付近の農作物、樹木の茎葉に薬液が飛散すると薬害を生ずる。 2. 散布後6時間以内に降雨があると、効果が低下するので気象条件に留意する。 3. 接触型で土壌処理効果はないので、雑草に均一に散布する。 4. 冬場は効果の発現が遅れることがある。
			多年生雑草		
果樹類 (かんきつ、りんご、びわ、いちじょう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)を除く) くり	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.50%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	一年生雑草	雑草茎葉散布	1. 散布後1時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 2. 他はバスタの項に準じる。
			多年生雑草		
			一年生雑草		
			多年生雑草		